

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和2年度
宮城県意見交換会(第1回)**

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

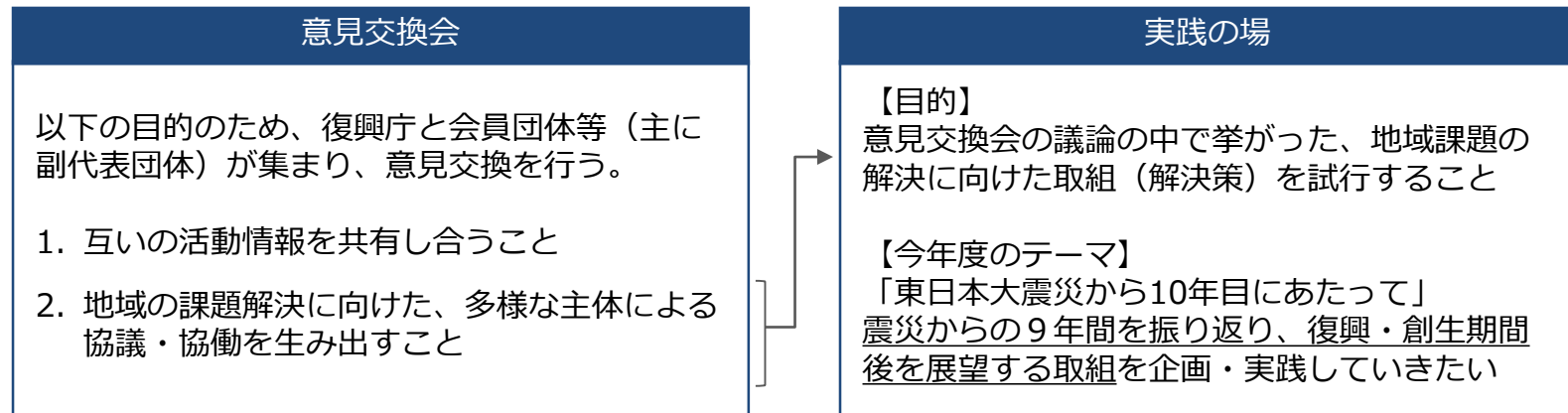
2020年6月12日

1. 今年度の意見交換会の方向性
（参考）過年度の振り返り
2. 今年度の意見交換会の進め方
3. 実践の場の企画背景
4. 実践の場企画案
5. 実践の場の成果イメージ
（参考）イベント関連の用語

● 1. 今年度の意見交換会の方向性

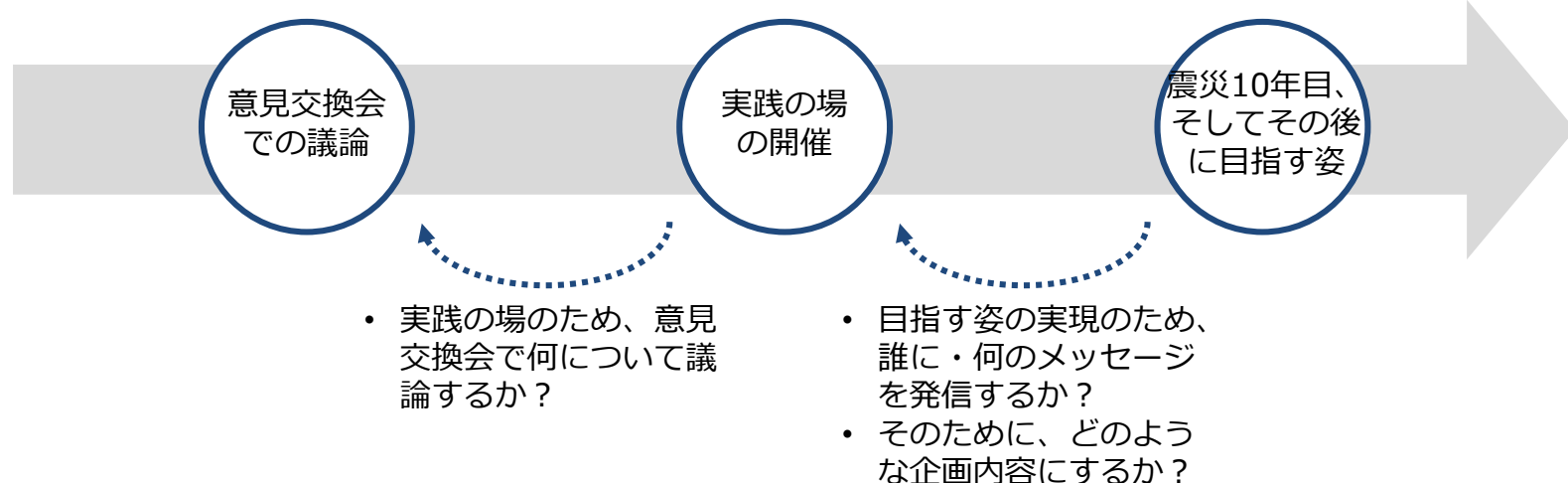
今年度は東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や、そのための意見交換会での議論を組み立てていきます。

■ 意見交換会、実践の場とは



■ 今年度の方向性

東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や意見交換会での議論を組み立てる



●（参考）過年度の振り返り

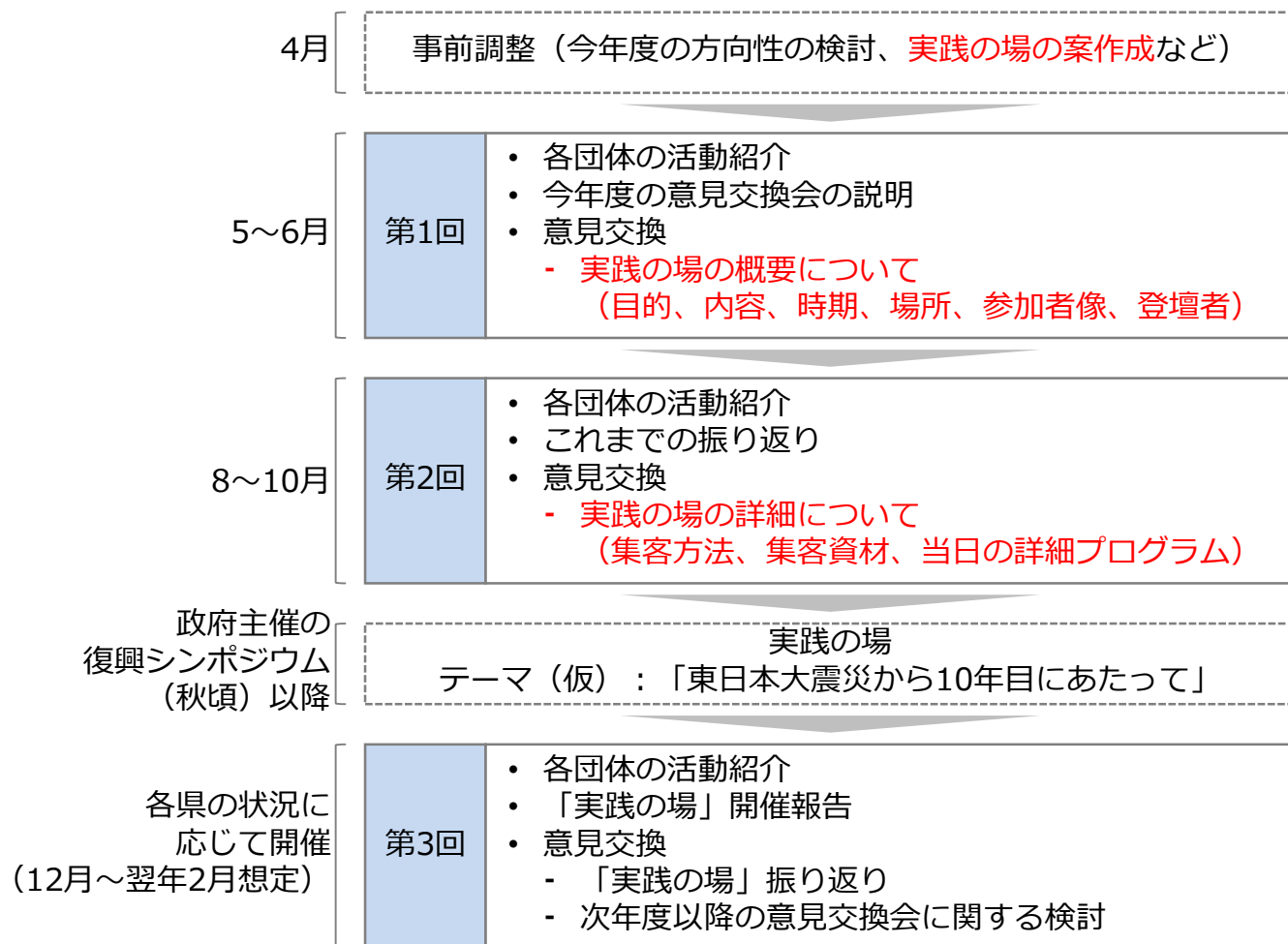
平成29年度～30年度はソーシャルセクターとの連携をテーマに議論し、令和元年度には沿岸地域における仕事の担い手不足解消のために、地域一体で観光まちづくりを行う枠組み構築に取り組みました。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
テーマ	地域コミュニティづくり、 ソーシャルセクターのあり方	セクター間連携による地域課題解決	沿岸地域の仕事の担い手不足解消 (特に東松島市の観光分野)
意見 交換会	<ul style="list-style-type: none"> 全5回の意見交換会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全3回の意見交換会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全3回の意見交換会を実施 第2回には連携対象団体として東松島市、貴凜庁、東松島あんてなしょっぷまちんどが出席
実践の場	<p>連携型交流会 in 宮城 「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」 (仙台市)</p> <p>ソーシャルセクター3団体による「新しい東北」創出に向けたビジネスモデルやサービス等をピッチ形式で議論</p>	<p>「南三陸をつなげる30人」 (南三陸町)</p> <p>南三陸町内外の約30人が集まりフューチャーセッションを通じて、南三陸の将来像や、課題解決に向けたセクター間連携の在り方を検討</p>	<p>「牡蠣で東松島を盛り上げよう！ ～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～ (東松島市)</p> <p>東松島の民間企業・NPO・住民が連携して取り組む“観光×SDGsの企画”を検討し、実行計画案を作成 (地域一体となって観光まちづくりを行う枠組みを構築)</p>

● 2. 今年度の意見交換会の進め方

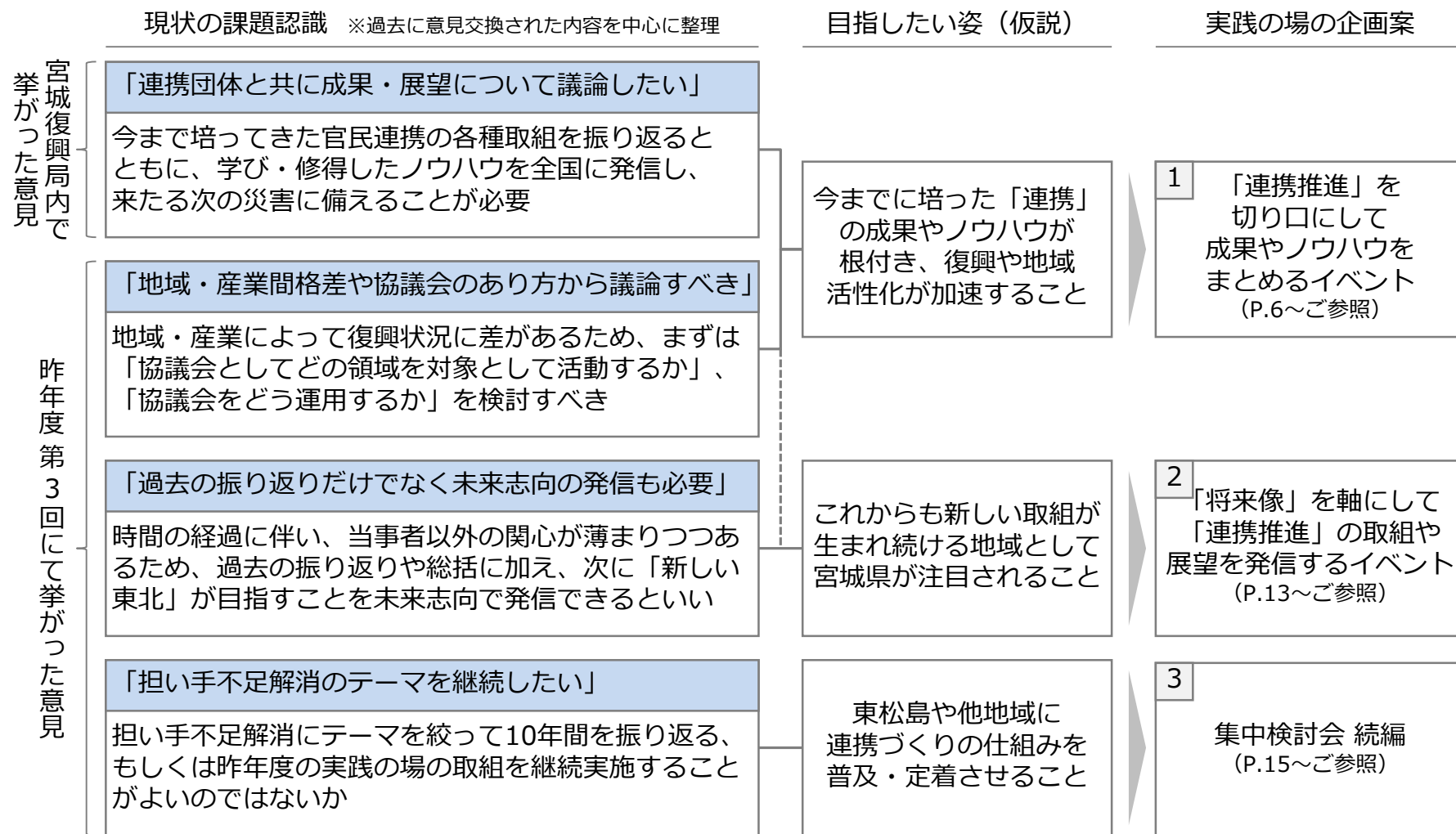
昨年度同様、全3回の意見交換会と実践の場を開催予定です。

ただし実践の場を秋以降の早い時期に開催できるよう、昨年度より前倒し、第1回には概要を、第2回には詳細を決定する段取りで進めます。



● 3. 実践の場の企画背景

これまでに挙げた意見を整理すると、実践の場の企画は以下3案が考えられます。



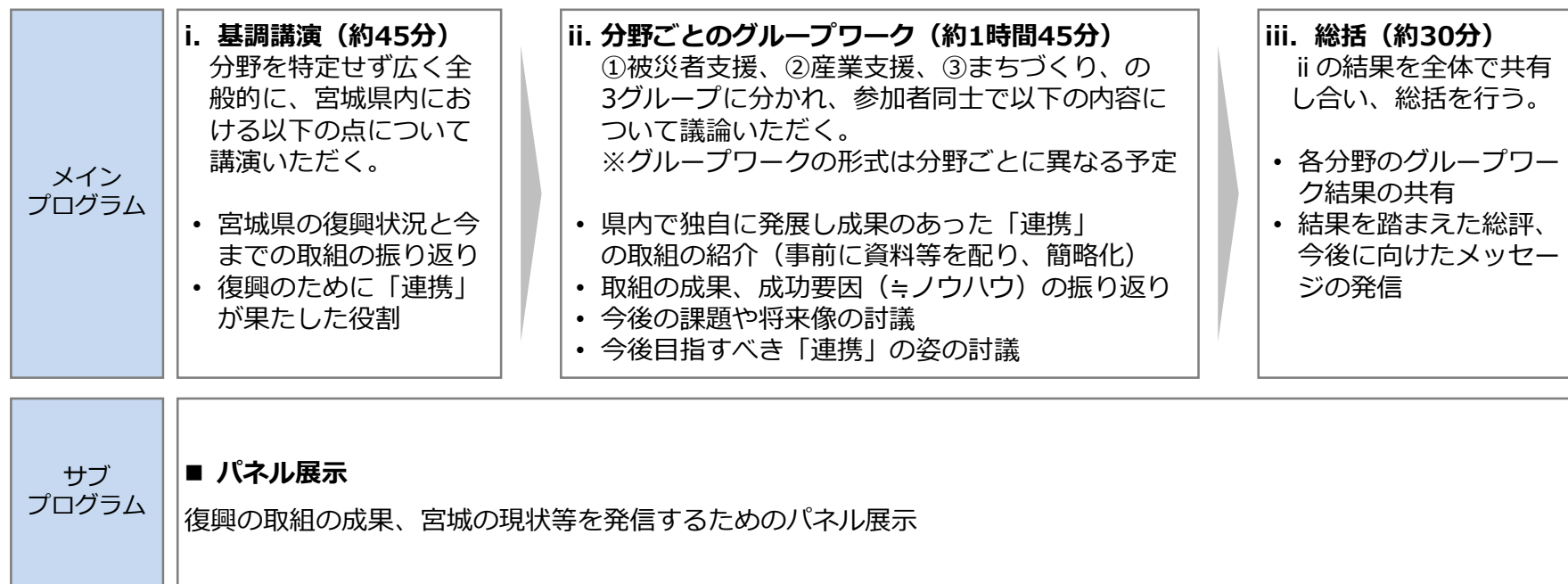
● 4. 実践の場の企画案 — 案1

案1（「連携推進」を切り口にして成果やノウハウをまとめるイベント）の場合、以下のような企画が考えられます。まずは企画の中心となる目的・内容についてご意見ください。

■「東日本大震災における『連携』の果たした役割について（仮称）」概要		主な論点
目的	今までに実施した官民連携の取組について、連携先のNPOや民間企業などともに「連携」を切り口にして振り返り・総括を行うことで、今後なお一層の連携強化に寄与することが第一の目的。 また、振り返りの結果を全国にも発信することで、官民連携の取組やノウハウが他地域で地方創生の取組に応用されることと、宮城県が「連携」を通じて復興・創生に取り組んでいる地域として全国から認知されることも目指す。	復興や地元団体の現状を踏まえると、10年目にあたって既存の連携先との連携強化を目指すことは妥当か？ 強化とはどのような状態か？
内容	基調講演では分野を特定せずに広く全般的に宮城県内における「連携」の取組とその役割・成果を振り返る。 その後分野ごとにグループに分かれて関係者同士でグループワークを行い、各取組を振り返り、今後の課題や将来像とそのために必要な「連携」の姿をまとめる。最後に、各分野の討議結果を共有し合い、全体の総括を行う。	全国のどのような人に、何を認知されたいのか？ 認知されることで期待することは何か？
参加者像	・ 官民の復興・まちづくり従事者（メインターゲット、直接声掛け） ・ 一般の県民	目的達成に資する内容・アウトプットになっているか？
協力者	・ 基調講演の登壇者とグループワークの参加者 ・ パネル展示の協力者	
手法・形式	i. 基調講演 ii. グループワーク（分野別に実施 ※） + パネル展示 iii. 総括	新型コロナウイルスの影響を受けると仮定した場合、手法・形式はどのように変更するとよいか？ （または目的・内容から見直しが必要か？）
場所	仙台市内（候補：せんだいメディアテーク）	
時期	11月下旬（参加者の多忙な12月～1月は避けたい）	※グループワークの形式は、分野ごとに異なる予定

● 4. 実践の場の企画案 — 案1 <プログラムイメージ>

当日のプログラムイメージは以下の通りです。

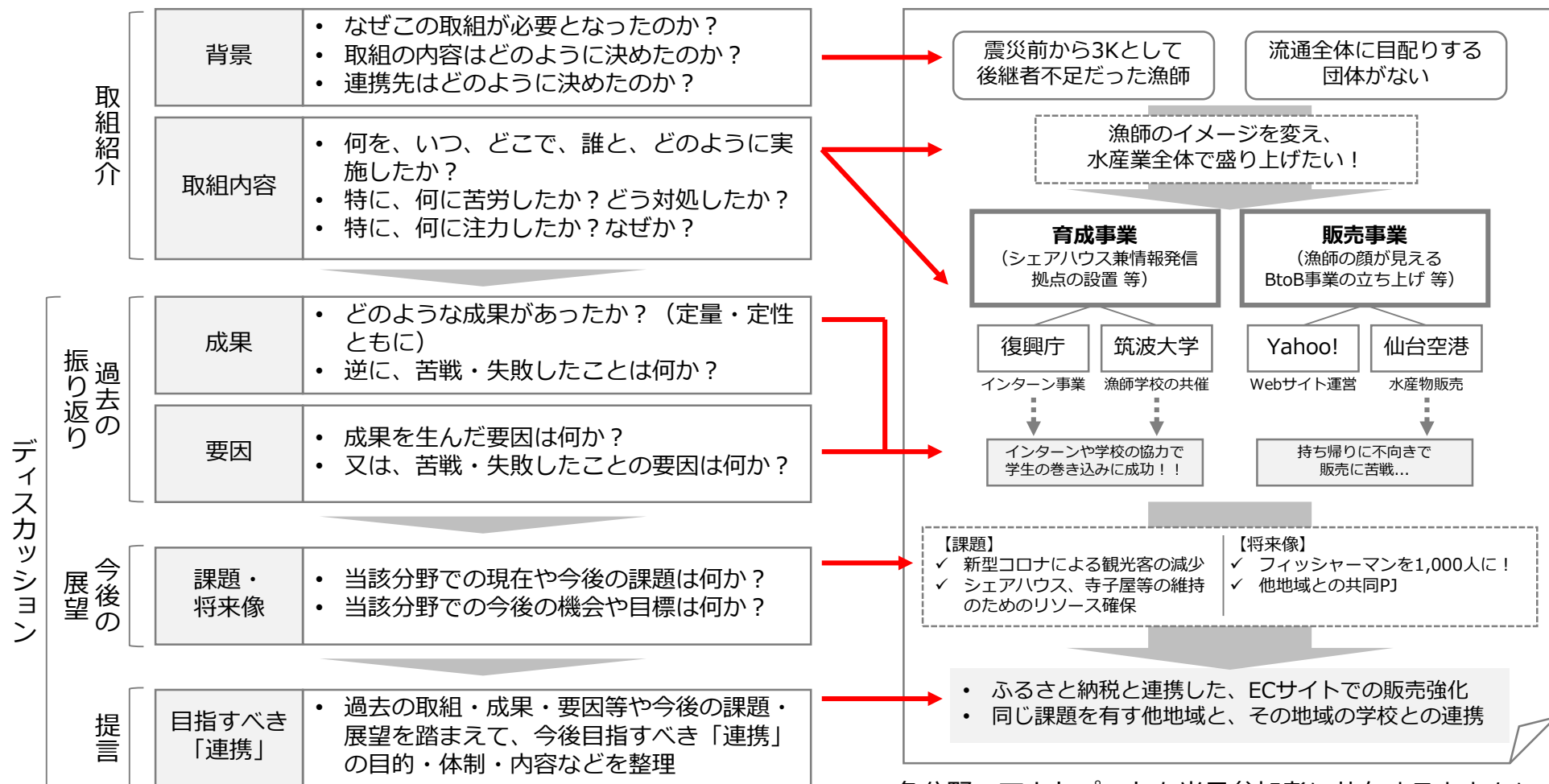


● 4. 実践の場の企画案 — 案1 <グループワークのイメージ>

プログラム ii 「分野ごとのグループワーク」の流れやアウトプットのイメージは以下の通りです。

グループワークの流れ

アウトプットのイメージ（②産業支援の場合）



各分野のアウトプットを当日参加者に共有するとともに、協議会ポータルサイト等を通じて全国に発信

● 4. 実践の場の企画案 — 案1' (対案)

成果やノウハウのまとめを重視した案1とは別に、「連携推進」を切り口にして成果やノウハウの発信を重視するイベントの場合、以下の内容が考えられます。

■ 「東日本大震災における『連携』の果たした役割について（仮称）」概要

目的	<p>今までに実施した官民連携の取組について、連携先のNPOや民間企業などともに、「<u>連携</u>」を切り口にして振り返り、展望することで、今後なお一層の連携創出に寄与することが第一の目的。</p> <p>そのために、<u>連携先候補を参加者として誘客し、振り返り・展望の結果を発信することで、10年間の取組を発展させた「連携」強化・開始の契機を創出する。</u></p> <p>また、結果の発信と継続的な活動の発信により宮城県が「連携」を通じて復興・創生に取り組んでいる地域として全国に認知されることも目指す。</p>
内容	<p>基調講演では分野を特定せずに<u>広く全般的に</u>、パネルディスカッションでは分野ごとにそれぞれ、<u>宮城県内における「連携」の取組とその役割・成果を振り返り・展望を発信する。</u></p> <p>※パネルディスカッション参加者に事前インタビューやディスカッションを実施し、それぞれの意見を確認・擦り合わせ、発信内容を確定しておく</p>
参加者像	<u>今後の連携したい官民の復興・まちづくり従事者（メインターゲット、直接声掛け）</u>
協力者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演とパネルディスカッションの登壇者 ・ パネル展示の協力者
手法・形式	<p>i. 基調講演</p> <p>ii. パネルディスカッション + パネル展示</p>
場所	仙台市内（候補：せんだいメディアテーク）
時期	11月下旬（参加者の多忙な12月～1月は避けたい）

主な論点

復興や地元団体の現状を踏まえると、10年目にあたって既存の連携先との連携創出を目指すことは妥当か？どのような連携の創出が望ましいか？

全国のどのような人に、何を認知されたいのか？
認知されることで期待することは何か？

目的達成に資する内容・アウトプットになっているか？

新型コロナウイルスの影響を受けると仮定した場合、手法・形式はどのように変更するとよいか？
（または目的・内容から見直しが必要か？）

● 4. 実践の場の企画案 — 案1' <プログラムイメージ>

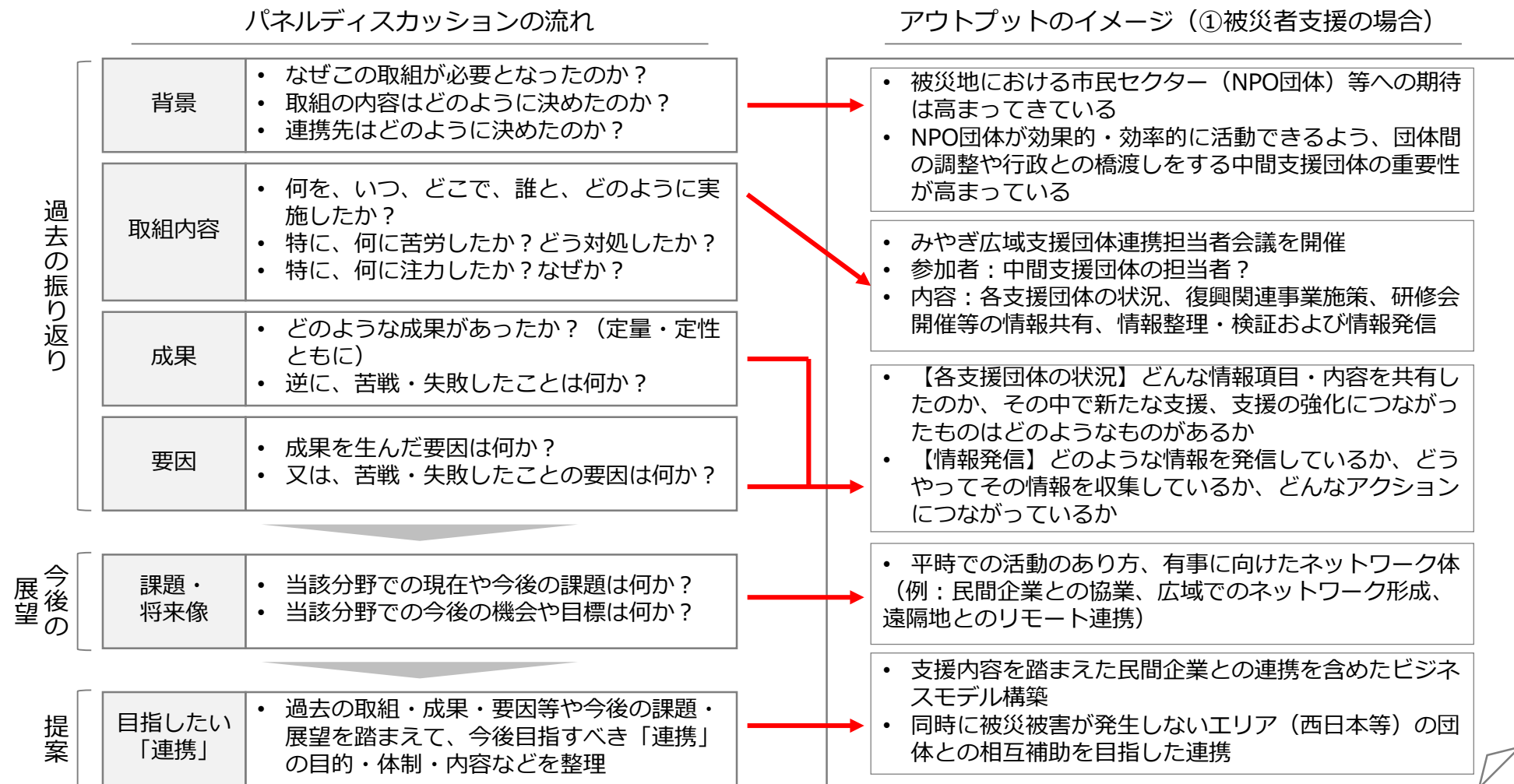
当日のプログラムイメージは以下の通りです。

案1'では当日の議論よりも会場内の参加者に向けた発信を重視するため、パネルディスカッションの内容に関して予めインタビュー等を行う想定です。

事前準備		■ 参加者への事前インタビュー・ディスカッション 各グループのパネルディスカッション参加者に対して、パネルディスカッションで発信する内容（下のii）を事前に確認し、摺り合わせ、発信内容を確定する	
当日	メイン プログラム	i. 基調講演（約45分） 分野を特定せず広く全般的に、宮城県内における以下の点について講演いただく。 <ul style="list-style-type: none">宮城県の復興状況と今までの取組の振り返り復興のために「連携」が果たした役割	ii. 分野ごとのパネルディスカッション（約45分×3グループ） ①被災者支援、②産業支援、③まちづくり、の3グループに分かれ、参加者同士で以下の内容について共有いただく。 <ul style="list-style-type: none">県内で独自に発展し成果のあった「連携」の取組の紹介（事前に資料等を配り、簡略化）取組の成果、成功要因（ノウハウ）の振り返り今後の課題や将来像の説明今後目指したい「連携」の姿の説明
	サブ プログラム	■ パネル展示 復興の取組の成果、宮城の現状等を発信するためのパネル展示	

● 4. 実践の場の企画案 — 案1' <パネルディスカッションのイメージ>

プログラム ii 「パネルディスカッション」の流れやアウトプットのイメージは以下の通りです。



各分野のアウトプットを当日参加者に共有するとともに、協議会ポータルサイト等を通じて全国に発信

● 4. 実践の場の企画案 — 案1と案1'の比較

案1は当日にアウトプットをまとめ、協力者が実施している「連携」の強化・見直しを主目的とし、案1'は事前にアウトプットをまとめ、当日会場の参加者へ発信し、新しい「連携」の契機創出を主目的としている点が特徴です。

	アウトプット	アウトプットを まとめるタイミング	主な発信対象	期待する効果
【案1】 振り返り重視	「連携」の取組・ 役割・成果、 将来の展望	当日	グループワーク 参加者 (協力者)	既存の「連携」の 強化・見直し
【案1'】 その場での発信・ 次のアクション重視	「連携」の取組・ 役割・成果、 将来の展望	事前	会場にいる 新たな連携候補の 団体	新しい「連携」の 契機創出

● 4. 実践の場の企画案 — 案2

案2（「将来像」を軸にして「連携推進」の取組や展望を発信するイベント）の場合、以下のような企画が考えられます。

主な論点

■ 「2030年の宮城をつくる会 ～東日本大震災で生まれた『連携』と『将来像』～（仮称）」概要

目的	復興を通じて形作られた現在の宮城の産業や、培った官民連携の各種取組を振り返り、「将来像」とそれを実現させる「連携」の構想を発信し、県内外からの注目を集めること。
内容	基調講演では広く一般的に、事例紹介では個別具体的に現在の復興状況と復興を支えた「連携」の内容・成果を振り返る。その後のグループワークでは、分野ごとの「将来像」を展望し、今後必要な取組や「連携」について提言をまとめる。
参加者像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 官民の復興・まちづくり従事者（メインターゲット、直接声掛け） ・ 一般の県民
協力者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演の登壇者とグループワークの参加者 ・ パネル展示の協力者
手法・形式	i. 基調講演 ii. 事例紹介 iii. 分野ごとのグループワーク + パネル展示
場所	仙台市内（候補：せんだいメディアテーク）
時期	11月下旬（参加者の多忙な12月～1月は避けたい）

復興や地元団体の現状を踏まえると、10年目にあたって「将来像」を検討・発信することは妥当か？

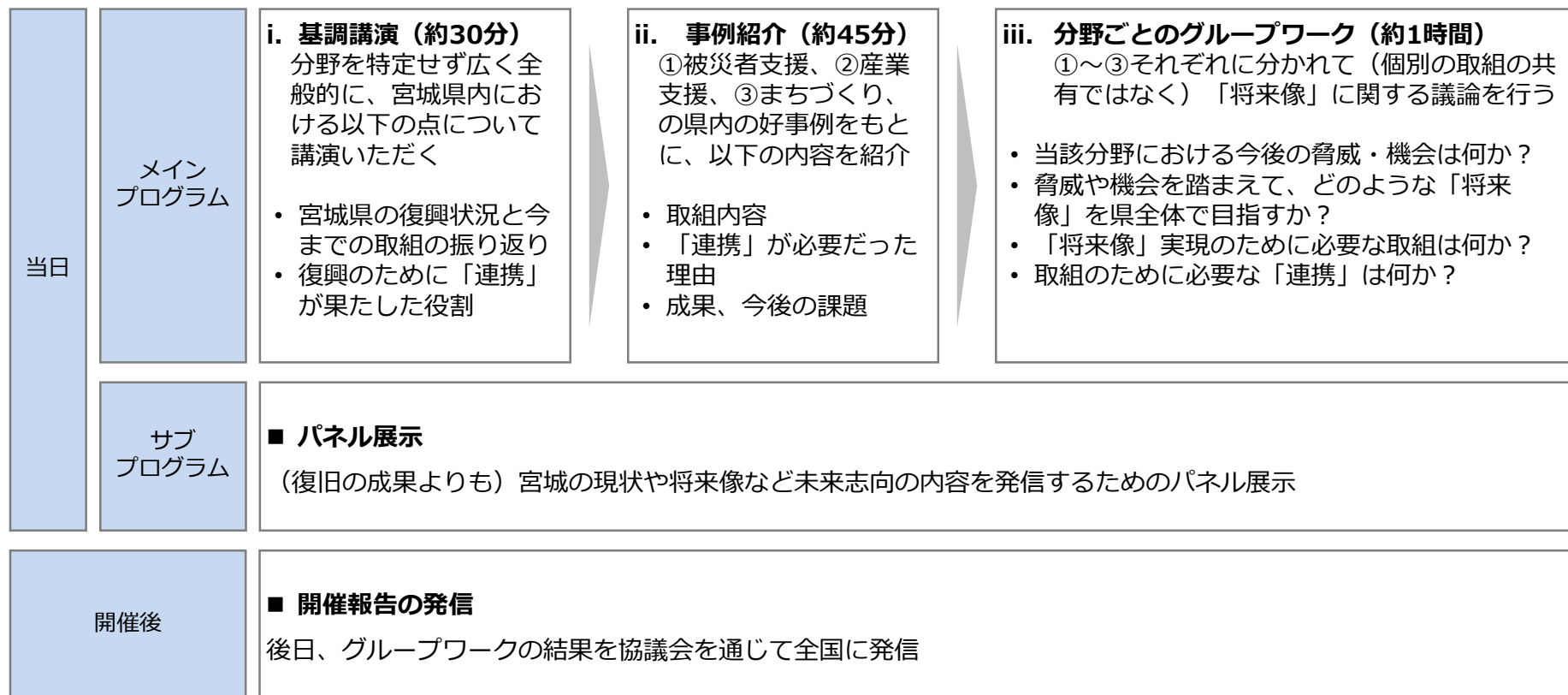
全国のどのような人に、何を認知されたいのか？
認知されることで期待することは何か？

目的達成に資する内容・アウトプットになっているか？

新型コロナウイルスの影響を受けると仮定した場合、手法・形式はどのように変更するとよいか？
（または目的・内容から見直しが必要か？）

● 4. 実践の場の企画案 — 案2 <プログラムイメージ>

当日のプログラムイメージは以下の通りです。
開催後にも、全国に向けて開催報告を発信する想定です。



● 4. 実践の場の企画案 — 案3

案3（集中検討会 続編）の場合、以下のような企画が考えられます。

主な論点

■ 集中検討会 続編の概要

目的	東松島にて昨年度集中検討会で実施した、連携のための仕組みを定着させること。 また、同じく観光の担い手不足に悩む他の地域でも同様に集中検討会を開催することで、仕組みの応用・普及を図ること。
内容	東松島では各チームの進捗共有を行った上で、チームの企画の深掘り・見直しや、推進に必要な機能・サポートを特定するために、全体とチームでディスカッションを行う。 他の地域では、昨年度実施した東松島市での第1回集中検討会と同じ内容を実施する。
参加者像	・ 地域内の観光に携わる方 （企業・NPO・個人含む）
協力者	・ 当該地域の役所（観光担当） ・ 連携の牽引役 ・ 商品開発等で知見を有する方
手法・形式	i. 参考情報の共有 ii. ディスカッション
場所	東松島市と県内の他の地域 （観光の担い手不足に悩んでいることが望ましい）
時期	11月下旬（参加者の多忙な12月～1月は避けたい）

復興や地元団体の現状を踏まえると、東松島市で引き続き、連携支援を行うことは妥当か？

他の地域でも同様の連携支援が必要とされているか？

目的達成に資する内容・アウトプットになっているか？

新型コロナウイルスの影響を受けると仮定した場合、手法・形式はどのように変更するとよいか？
（または目的・内容から見直しが必要か？）

● 4. 実践の場の企画案 — 案3 <プログラムイメージ>

当日のプログラムイメージは以下の通りです。
開催後にも、全国に向けて開催報告を発信する想定です。

「牡蠣で東松島を盛り上げよう！」集中検討会 第2弾 @東松島市

1. 各チームの進捗共有（約30分）

各チームの代表者より、企画の実施状況や困っている点などを全体に共有（3分程度×7チーム）

2. 全体ディスカッション（約30分）

各チームの企画内容や悩みに対して、全体でディスカッションを行う（サポーター等からもアドバイスする）
※希望があれば、チーム再編のための話し合いも行う

3. チームディスカッション（約1時間半）

第1回集中検討会と同様に、企画や実行計画の詳細化を実施。さらに、推進に必要な機能・サポートについても議論。

他地域での集中検討会

1. 参考情報の共有（約15分）

議論の参考になる情報を参加者に対して共有する。

2. アイスブレイク（約10分）

参加者同士の交流を図り、議論しやすい雰囲気をつくる

3. チームディスカッション（約1時間15分）

テーマ（「〇〇な観光施策」など）に関して、5チーム程に分かれて、下記①～③を検討する。

【検討事項】

- ①観光施策の具体案、②関連するSDGsの目標、
③当該施策のキャッチコピー

4. ディスカッション成果の発表（約30分）

各チームで検討した①～④の内容を、全体に対して共有する。他のチームからは、深掘りや内容改善のための質問・コメントを伝える。

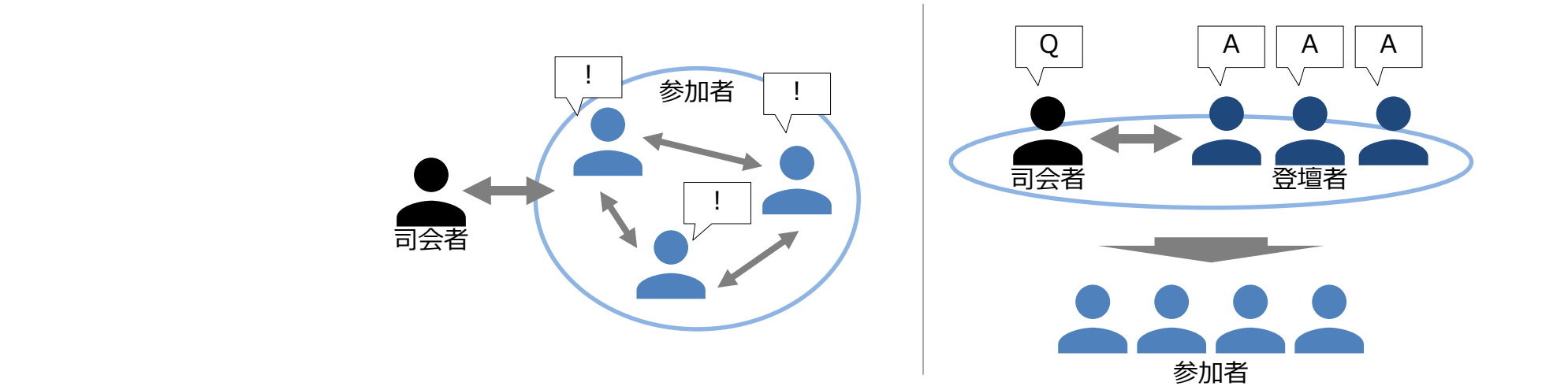
● 5. 実践の場の成果イメージ

下図の通り、企画案によって、誰に・どのような影響を与えるか（＝実践の場の成果）が異なります。

			地域	
			県内	県外
参加者の属性	復興・まちづくり従事者	連携あり	<div>案1 県内の事業者の既存連携を強化</div>	
		連携なし	<div>案2 県内の従事者とともに将来像・今後の連携を展望</div>	
	上記以外の一般人等		<div>案3 特定の地域内で既存連携の強化、新規連携を創出</div>	<div>案1' 県内の従事者が、地域問わず他の従事者との連携のきっかけを掴む</div>

● (参考) イベント関連の用語 — グループワーク、パネルディスカッション

グループワークは参加者自身が議論を通じて検討することを目的としている一方、パネルディスカッションは複数の登壇者が意見・議論を交わし、それを参加者が聞くことが目的です。

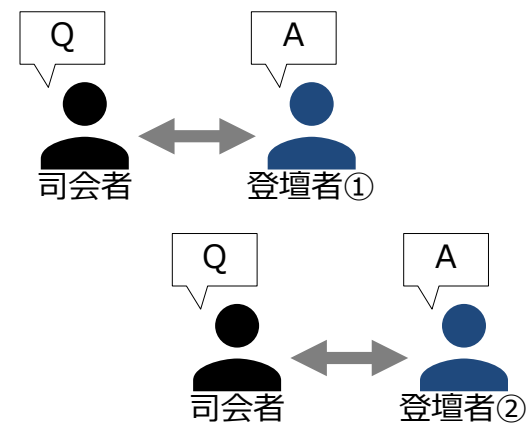
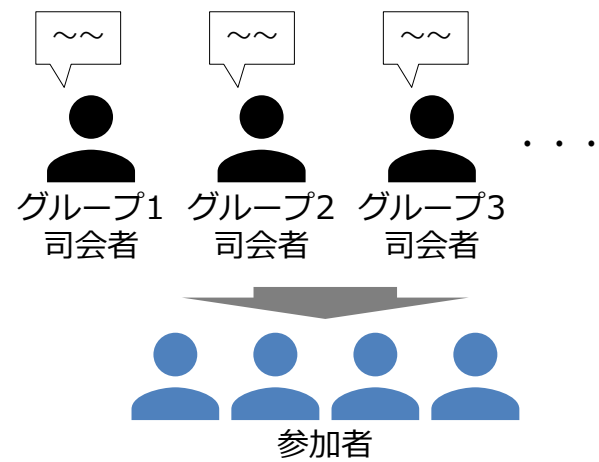


		グループワーク	パネルディスカッション
目的 (参加者目線)		参加者自身が、他の参加者との議論を通じて、 テーマに対する解を検討する	先進的な事例・知見を有する複数の登壇者の意見 や議論を、参加者が聞き、ともに考える
役割	司会者	参加者の議論を円滑に進行させ、取りまとめる	登壇者に質問し、意見や議論を促す
	登壇者	(なし)	意見・議論を行う
	参加者	参加者同士で議論する	登壇者の話を聞いた後、質問して議論に参加
当該手法を用いた案		案1、案2、案3	案1 (※一部分野)、案1'

* 上記の内容は一般的な定義をもとに、今回のイベントに合わせて補記しています

● (参考) イベント関連の用語 — 総括、インタビュー

グループワーク後に実施する総括は、イベント全体の成果の取りまとめを目的としている一方、パネルディスカッション前に実施するインタビューは登壇者の意見の整理・把握が目的です。



		総括	インタビュー【イベント前に実施】
目的 (参加者目線)		各グループの議論結果を全体に共有し、イベント全体としての成果を取りまとめる ※グループワーク後に実施	予め登壇者の意見を整理・把握すること ※パネルディスカッション前に実施
役割	司会者	・ 各司会者が自グループの議論結果を全体に共有 ・ 全グループの結果を踏まえて、イベント全体としての総評や今後に向けたメッセージを発言	登壇者に対して、テーマに関する意見を確認する
	登壇者	(なし)	テーマに関する意見を整理し、司会者に回答する
	参加者	司会者の発表を聞く	(なし)
当該手法を用いた案		案1	案1'

* 上記の内容は一般的な定義をもとに、今回のイベントに合わせて補記しています